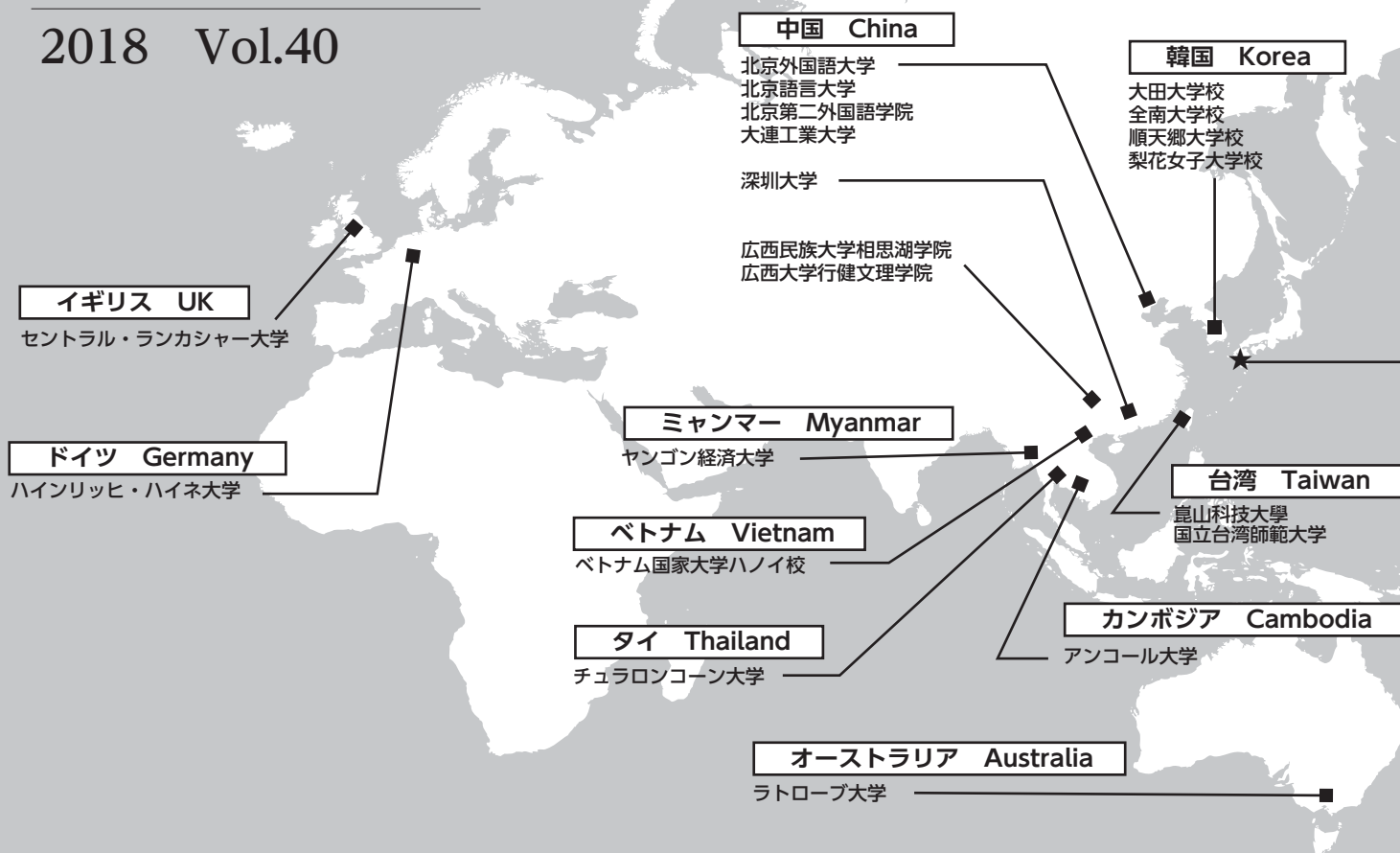


国際交流シタ一

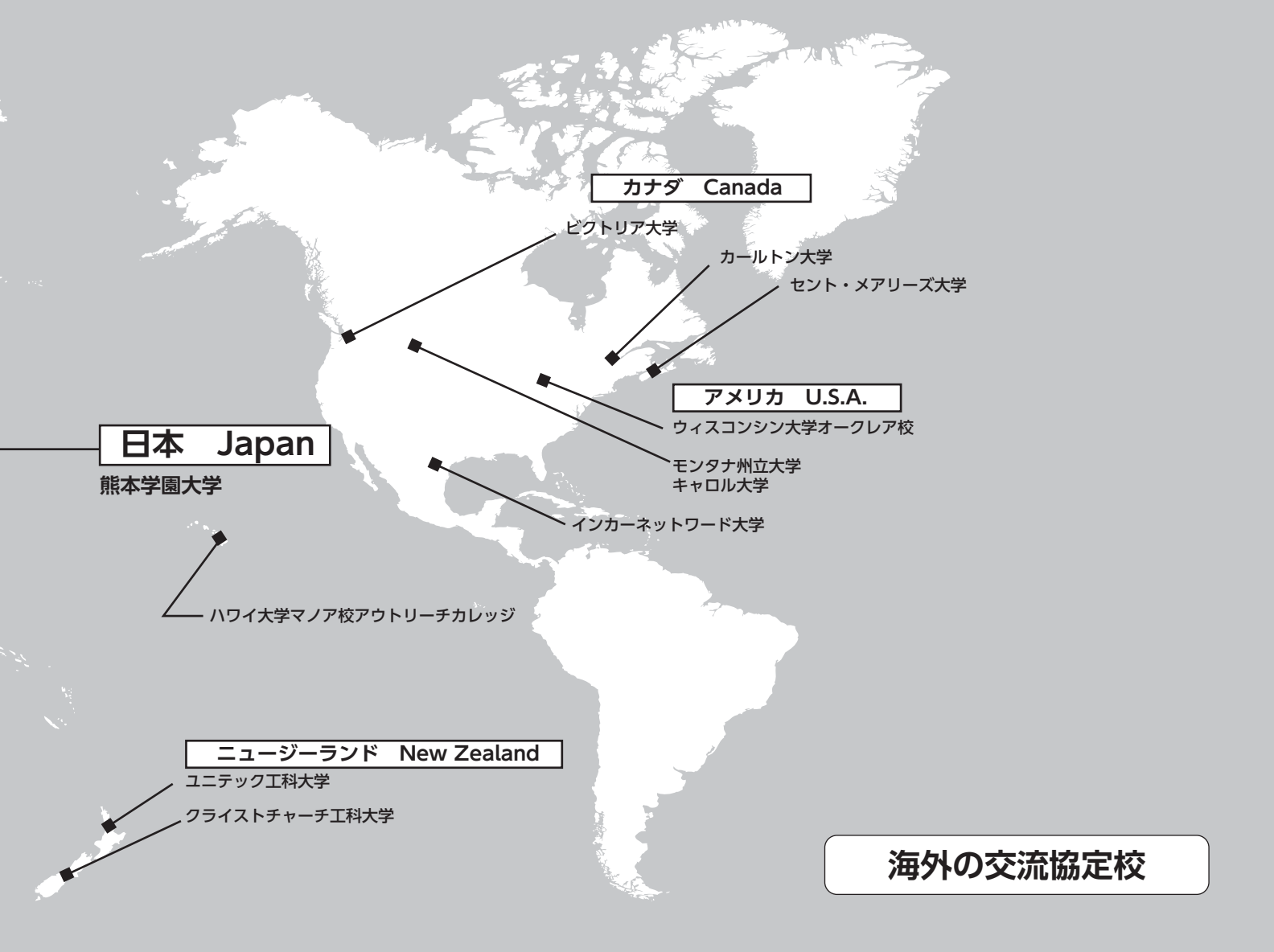
2018 Vol.40
International Exchange Letter





目次

巻頭言	国際交流委員長 佐藤 勇治	2
TOPICS	第 28 回外国人留学生弁論大会 新協定校紹介 ハワイ大学マノア校アウトリーチカレッジ 台湾・崑山科技大學短期研修団受入れ 中国・広西民族大学相思湖学院代表団が来学 米国・モンタナ州立大学副学長一行が来学	3
交換教員	李 漢 祥 (平成 30 年度交換教員受入 韓国・大田大学校) 堀 正広 (平成 29 年度交換教員派遣 韓国・大田大学校) 申 明 直 (平成 30 年度交換教員派遣 韓国・大田大学校)	5
留学体験記	Thomas Middleton (ホスピタリティ・マネジメント学科 2 年) James Spurr (ホスピタリティ・マネジメント学科 4 年) 金 智 珉 (東アジア学科 4 年) 余 ダハム (ホスピタリティ・マネジメント学科 4 年) 林 东 红 (経済学科 3 年) Bui Thuy Chi (経済学科 3 年)	8



海外の交流協定校

留学体験記	金子 幸紀 (英米学科 4 年) 奥村 葵 (英米学科 4 年) 立川 桜子 (東アジア学科 5 年) 瀬野 智博 (東アジア学科 5 年)	11
<hr/>		
サマープログラムに参加して	中村 修斗 (経済学科 4 年)	13
短期認定留学に参加して	嶽本 瑞希 (英米学科 4 年)	
<hr/>		
海外協定校訪問 (報告)	中国 (北原 かおり)、アメリカ・カナダ (大澤 孝)	14
<hr/>		
DATA	平成 30 (2018) 年 海外往来 平成 30 (2018) 年度 研修団往来 海外への派遣学生数 平成 30 (2018) 年度 出身国・地域別外国人留学生数 平成 30 (2018) 年度 留学生の主な参加行事	15



国際環境を活かす

国際交流委員長 さとう ゆうじ 佐藤 勇治

今の日本では国をあげて「グローバル人材育成」が叫ばれている。20世紀までは「国際人育成」が叫ばれていたが、経済・学術・芸術・スポーツ等多方面で、国境を越えて人と物と金が往来する機会と形が増え、また政治の面でも一部の揺らぎはあるもののヨーロッパ連合（EU）のような地域統合体が登場したり、世界規模で取り組まなくてはならない温暖化や水資源やエネルギー問題などが存在することがその背景である。このような環境変化の中で、適切に多様な人々と渡り合える人が求められているのである。インターネットの普及による情報革命と、英語が世界共通言語として広く普及していることもグローバル化を後押ししている。

このような世界動向の中で、日本の役所も会社も学校も、グローバル化に対応できる組織の在り方や、人材の育成に翻弄されているといっても過言ではないような状況である。とりわけその要となるのは、新時代に対応できる心と能力を備えた人材の育成が重要課題となっている。単一民族的な環境の中で、長年にわたり日本人の価値観や行動規範などが多様性になじんでこなかったことがその一因であろう。かつては世界との関わりの中で活躍できる「国際人」そして現在の「グローバル人材」の育成は、主として「留学」という形で、「外国で学んでくる」という意識と実践が主流であった。これからはもっと国内の国際環境を活かすことも併せて考えるべきだと思う。もちろん従来型の「外で学ぶ」ことは大切であり、日本とは民族も言語も文化も異なる異国で学び・働き・生活する経験は大変貴重なものであり、機会があればできるだけ多くの海外体験を積むことにこしたことはないが、同様の経験を積むことができる国内環境も一昔前とは比べ物にならないほどに整備されてきている。

私事で恐縮であるが、筆者は熊本県の南東部に位置する農村地帯の多良木町という田舎町に生を受け、17歳までこの町で暮らしたが、この間に外国人に会ったのは、キリスト教の布教のためにアメリカから来られ

た宣教師御夫妻と教会でお逢いした1回と、町の商工会議所が町の祭りを盛り上げるために招いた外国のダンサーとの対面、そしてロータリー奨学生として来日中のオーストラリアの高校生数名が、母校の人吉高校を訪問した時の対面の、計3回のみである。都会とは異なる片田舎の農村地帯という制約があったのは否めないが、恐らく50年ほど前の日本の状況は概ねこのような国際環境が多かったのではなかったろうかと想像している。英語も51年前の中学1年生の時に初めて学んだが、それを実際に使う場もほとんどなく、テレビで見る豊かなアメリカの生活に憧れを持って見るぐらいのことしかできなかったのである。

翻って現在の日本の国際環境の変化には目を見張るものがある。職場には同僚として外国人と一緒に働くようになり、組織によっては最高責任者が外国人というものもある。地域でも外国人が隣人として共に暮らす姿を多く見かけるようになった。また学校にもALT（外国語指導助手）と呼ばれる外国人が常駐するようになり、外国籍の子ども達も同じ教室で学ぶことが増えてきている。自治体やその外郭団体のような公的機関が催す各種の国際行事も花盛りであり、それらの行事に参加するだけでなく、運営のボランティアスタッフとして協力することもできる。熊本学園大学の中だけでも、外国の協定大学から来ている交換留学生や私費留学生との交流の場もある。留学生弁論大会や留学生歓迎会や送別会に参加することもできるし、イングリッシュラウンジのような英語環境で留学生と交流することもできる。また、外国の大学で学んできた帰国留学生の報告会で、国際的な知見を広げる機会もある。

このように私たちの身の回りには、様々な国際体験を積む場と機会が存在する。国際人あるいはグローバル人材になるためには、外国へ出かけるチャンスをすぐに利用できない場合でも、国内の身近な国際環境を有効に活かすことで、多様な学びを体験できることを覚えておきたいものである。

第28回外国人留学生弁論大会

6月9日（土）に毎年の恒例行事である外国人留学生弁論大会を開催しました。本大会は、本学に在籍する外国人留学生が、彼らの日本語能力の向上を図ると共に日本人との相互理解を深めることを目的としています。今回は4ヵ国6名の留学生が出場し、それぞれの思いを緊張しながらも練習を重ねた素晴らしい日本語で堂々と発表しました。会場には、学生、教職員及び地域の皆さんが来てくださり、留学生たちの発表に聞き入りました。

最優秀賞とオーディエンス賞をダブル受賞したのは、台湾からの交換留学生劉靖さんでした。劉靖さんは「日本に来て自分を知った」をテーマに、「自分は台湾と日本のハーフ。周囲から『雑種犬』と言われた事もある。しかし、国という“名称”を越えて、私は私。名称にこだわるのはナンセンス。重要な事はお互いを尊重する事。」と主張しました。また、優秀賞に輝いた韓国からの留学生孫胤途さんは、太宰治の「人間失

格」について自分の見解を述べました。同じく優秀賞の韓国からの留学生、朴昶園さんは「私の夢について」と題して発表。「中学2年生の時に会った先生が人生を変える大きなきっかけになった。将来は日本で韓国語を教える教員になるのが夢。」と語りました。



<後方左から>向井洋子社会福祉学部准教授（審査員）、佐藤勇治国際交流委員長、リュウセイ、ソンユンド、ソンジュンホ、川田亮一商学部准教授（審査員）

<前方左から>ジェームズ スパー、パクギョンオン、チョウムカ

受賞者一覧

最優秀賞	商学科3年	リュウセイ 劉靖	（台湾）日本に来て自分を知った
優秀賞	東アジア学科4年	ソンユンド 孫胤途	（韓国）太宰治の「人間失格」について
	東アジア学科3年	パクギョンオン 朴昶園	（韓国）私の夢について
奨励賞	英米学科4年	ソンジュンホ 孫俊鎬	（韓国）性の平等と韓国で行われている女性運動
	ホスピタリティ・マネジメント学科4年	ジェームズ スパー James Spurr	（カナダ）スピーチコンテストから学んだこと
	商学科4年	チョウムカ 張夢歌	（中国）日本のデリバリーについて
オーディエンス賞	商学科3年	リュウセイ 劉靖	（台湾）日本に来て自分を知った

新協定校紹介 ハワイ大学マノア校アウトリーチカレッジ（米国）

ハワイ州で最大の州立大学ハワイ大学マノア校付属の語学学校で、コミュニケーション能力の向上を目的に、スピーキング中心の授業を展開しています。

キャンパスは、ホノルル中心部からバスで15分の距離に位置する静かな住宅地のあるマノア渓谷にあります。学内設備も充実しており、安全な学習環境が整備されています。

またホノルルは、ハワイ州最大の都市で世界的なリゾート地であることから、世界中より観光客が押し寄せます。ワイキキビーチ、ダイヤモンドヘッド、真珠湾、アリゾナ記念館など観光名所や文化施設も多く集まっています。





台湾・崑山科技大學短期研修団受入れ

今年7月に初めての試みとして、協定校である台湾・崑山科技大學の学生を対象とした2週間の短期研修プログラムを実施しました。これは、海外の協定校との交流活性化の一環として、日本語・日本文化を学ぶ短期研修プログラムを新設し、本学の外国人留学生受入れの幅を広げるために実施するものです。プログラムの内容は、外国語学部英米学科の塩入すみ先生にコーディネートしていただき、日本語の授業を中心に、日本文化に関する講義、また学外での茶道体験や工場見学なども盛り込みました。

本プログラムの特色は、授業や授業以外の時間を通じて、本学の日本人学生とより多く交流できるということ。会話練習の時間には、本学の日本語教員養成課程で学ぶ学生たちに大いに活躍してもらいました。

今年は、7月10日から7月24日の2週間、崑山科技大學から12名の研修生を受入れました。修了式では、多くの学生が「日本人学生との交流」が一番印象的であったと話してくれ、またほとんどの学生から本プログラムに「満足」しているとの感想を得ることができました。今回実施後の反省点をもとに改善を重ね、今後より多くの海外協定校の学生に参加してもらえるプログラムに成長させていきたいと思えます。



歓迎昼食会



日帰りバスツアー（阿蘇）



日本語授業

中国・広西民族大学相思湖学院代表団が来学

11月28日（水）～29日（木）、中国・広西民族大学相思湖学院から黄大周学院党委副書記率いる代表団が本学を訪れ、幸田学長への表敬訪問を始め、両大学間における交流の発展の可能性について協議を行いました。

広西民族大学相思湖学院と本学は、2014年4月に大学間交流協定を結び4年になりますが、この間9名の交換留学生を受入れています。今後ますます往来が活発になることが期待されます。



米国・モンタナ州立大学副学長一行が来学

2019年1月28日、モンタナ州立大学より、マイリー・ゴンザレス国際交流担当副学長とジャネル・ラズムセン国際部研修団担当部長のお二人が姉妹校である本学を訪問されました。学長表敬の際には、モンタナ州立大学のキャンパスに新しく出来る建物に学生部門を集約し更なる学生サービスの向上を目指している事などが紹介されました。



熊本での思い出

大田大学校 ^イ李 ^{ハン}漢 ^{サン}祥

【2018年3月～2019年2月 韓国・交換教員】

熊本学園大学で交換教員として生活した1年は私の人生の中でとっても大切な時間として記憶されそう。1992年以來公務員、大学教員として働き忙しい毎日を送っていた私にとって熊本での生活はリフレッシュする良い機会になった。大学での講義の負担が少ないため、思索と運動、旅行が可能だった。

もちろん韓国でやっていたことを熊本に持ってきて、続けたものもあった。最も多くの時間を費やしたのは、毎週新聞に連載するコラムの原稿を書くことだった。日本に住みながら、韓国の遺跡の物語を書くのは容易ではなかった。資料がなくて韓国に帰って持ってきたり、各地の図書館で資料を探したりした。

過去にも何度も日本を訪問していたが、大半が1週間以内の短期間だった。旅行というよりは職場での仕事のためだった。しかし今回の日本訪問は、それまでとはまったく異なる性格なので、九州をはじめ日本各地を旅行することができた。

半分ぐらいは遺跡と遺物を調査する目的だった。古代の韓日両国交流史に対する興味を持っているので、玉名郡にある江田船山古墳には5回も訪れ、関連資料を収集した。平素から関心のある研究テーマのなかには貴金属遺物が含まれる。韓国には過去の金鉱や銀鉱が残っていないが、日本の場合は、世界遺産に指定された石見銀山をはじめ、多くの鉱山遺跡が残っている。夏休みには日本の本州各地に位置する鉱山遺跡を見ることができた。

残りの半分は九州の名所を訪れた旅行だった。家内と一緒に温泉を楽しむ趣味を共有していたため、鹿児島指宿、宮崎南郷村、阿蘇と黒川、雲仙などあちらこちらを歩き回った点も記憶に残る。指宿の浜辺での砂の蒸し風呂と雲仙温泉の小地獄から湧き出る温泉での入浴は、特別な経験だった。

もう一つ思い出すのは江津湖公園の夕焼けだ。水前寺駅付近から歩き始め、水前寺成趣園を歩いていくと江津湖公園が見えてくる。江津湖公園は広すぎて毎回全体を一周することはできなかったが、旧砂取細川邸庭園から動植物園までの道は鳥や水草、樹木が調和した素敵な風景だった。

韓国ではあまり体調が優れず病院に頻繁に行ったが、熊本では眼科を除けば、病院に行かずに過ごすことができた。すべてのものが大学と熊本の自然が与えてくれた贈り物なので、感謝している。大澤さんをはじめとする熊本学園大学関係者の皆さんに感謝の言葉を伝えたい。





韓国大田大学校での交換教員を終えて

外国語学部教授 堀 正広^{ほり まさひろ}

【2017年3月～2018年2月の1年間 交換教員として韓国・大田大学校へ派遣】

2017年3月3日に大田大学校に赴任し、翌2018年3月2日に帰国しました。大学の教員生活30年を超えて、教師生活も最終コースに差しかかり、「教えること」、「語学教師であること」、そして「研究すること」を見つめ直してみたい。そんな思いで交換教員を希望しました。

「教えること」に関しては、あらためて教えることの楽しさを噛みしめることができました。慣れない科目を担当したので、準備には大変時間がかかりましたが、敬意をもって接してくれる学生に多くのものを伝えたいと、授業では時にはヒートアップすることもありました。しかし、熱心に受講する学生と共に充実した授業を行うことができました。

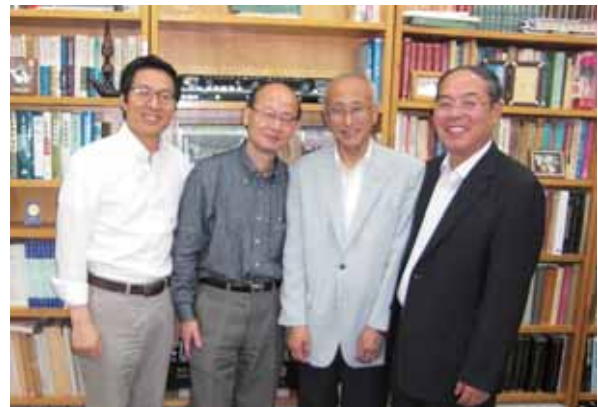
「語学教師であること」に関しては、英語の教師として、英語が通じない異国での生活はどういうものかということを経験しました。韓国での1年間の生活は、それまでの海外経験とは違った緊張感がありました。サバイバル・ハンゲルを駆使しながら日常生活を切り抜けているうちに、ハンゲルを使うことに恐れがなくなり、実際の生活で慣れない言葉を学ぶことが楽しいと思えるようになりました。小さな失敗は幾つもありましたが、有り難いことにとくに問題もなく1年間を無事過ごすことができました。

「研究すること」に関しては、これまで論文や研究書や啓蒙書を書いてきましたが、ほとんどが必要に迫られて出版してきたものでした。研究生活の仕上げとして、自分の書きたいものを書こうと心に決

め、日本を出発する前に出版社も決定し執筆に専念しました。編著や共著の仕事は、韓国での滞在中に終えましたが、本命の単著の本は、思い入れが強いので帰国後も継続して執筆しました。現在は校正の段階で、2019年2月には出版されます。

韓国での一年間は、北朝鮮の過激な行動で世の中は慌ただしく、日常生活においても若干の緊張状態にありました。そのような状況の中で、日本と韓国に関して、報道の仕方、国民性、社会の歪み、政治と個人、学生の気質などについて日本語や英語ができる先生方と話しをする機会が度々ありました。日本にいるときとは違った見方や考え方に触れ、いろいろと考えさせられることが多かったように思います。私たち日本人はもっと隣国との関わりを持つべきだと改めて思いました。

最後に、このような機会を与えていただいた熊本学園大学に心から感謝の意を表したいと思います。



写真は左から、関丙勳先生、堀、佐藤勇治先生、李義澤先生

韓国の大田大学校で教えながら学んだこと

外国語学部教授 ^{シン} ^{ミョン} ^{ジク} 申 明 直

【2018年3月～2019年2月の1年間 交換教員として韓国・大田大学校へ派遣】

これまで時々韓国に帰っていたが、1年を通して、春学期と秋学期を韓国で過ごしたのは、ほぼ20年ぶりである。韓国の現況についてはある程度わかっていると思っていたが、それ以上に韓国は変わっていた。

最も強く感じたのは、韓国はやはりダイナミックだということである。日本の外国人研修実習生制度を見本として韓国も導入したが、日本より先に雇用許可制を実施し、日本より遅れてフェアトレードや社会的連帯経済システムを導入したが、より早い速度で実践していた。少子化や高齢化問題も日本より速いスピードで進んでいた。

韓国を廻って見て一番考えさせられたのは、村の共同体と社会的連帯共同体文化との関連である。全羅南道の求禮、全羅北道の完州、忠清南道の洪城、京畿道の安山と華城、ソウルのソンミ山共同体などを見て回りながら、未来の東アジア、未来の韓国を作っていく代案としての共同体を探ってみることができた。

大田大学校の学生との授業も楽しかった。日本の現代事情とビジネス・コミュニティ関連の授業で

あったが、日本の新聞に出ているキーワードを中心として調査したり、日本の村共同体に関する本と一緒に読みながら、日本にいる間は詳しく調べられなかった日本における様々な共同体の物語と接することができて嬉しかった。

しかし何より良かったのは、大田大学校でおこなった2回のフォーラムであった。春学期と夏休みの期間中に準備して9月におこなった「社会的経済としてのフェアトレード・フォーラム」では、韓国のフェアトレードの専門家を招待し共に話し合うことができ、また、12月中旬には「持続可能なフェアキャンパスとまちづくり」をテーマにしたセミナーでも専門家を招待し良い話を聞くことができた。特に、大田大学校の学生たちと共に「SGF（持続可能なグローバル・フェア）キャンパス学生サポーターズ」のスタートアップもできて、何より嬉しかった。これをきっかけにして、大田大学校の学生と熊本学園大学の学生が交流し、東アジアの共生に向かって共に一歩進んでいくことができるなら何より幸いである。



社会的経済としてのフェアトレード・フォーラムにて



My experience in Kumamoto

トーマス ミドルトン
Thomas Middleton

[2017年9月～2018年3月
オーストラリア・ラトロープ大学からの交換留学生]

It had always been a dream of mine to visit Japan and once I got the opportunity to go I was excited. When I had arrived in Japan, however, it was quite a shock. I had never left Australia since birth and everything seemed so dissimilar. As soon as I left the plane and entered Tokyo airport it was quite different to anything I had seen before. The food was all peculiar and different and I was afraid to speak in case no one could understand me. However, when I first arrived at Kumamoto and KGU I found that everyone was so kind and welcoming and that I was accepted quickly. I made close friends after living in the dormitory for just a month and I would often go out to socialize and spend time with my newly made Japanese friends. I also quite liked my Japanese language classes,

as I had kind and caring teacher assistants who helped me make learning fun and enjoyable. I would have to say that my experience at KGU and Kumamoto was the best experience of my life. I look back fondly on my memories and think about the great times that I had. Key recollections of my stay in Kumamoto are participating in a sado tea ceremony, doing zazen in Okunoin and getting punished by a monk with a kyosaku (a flat wooden stick) and traveling to Nagasaki where I learned about the sad history and impact of the war. I would like to thank everyone who made my stay in Kumamoto exciting and inspiring. I hope one day I will return and continue to make more fond memories.



親しい友達と。日本での最後の授業の後で（筆者中央）

私の熊本の生活

ジェームズ スパー
James Spurr

[2017年9月～2018年8月
カナダ・セント・メアリーズ大学からの交換留学生]

私はカナダから来たスパー・ジェームズです。一年間熊本に住んでいました。全ての留学生にとって熊本はとても良い場所だったと思います。熊本には色々な行きやすい所があります。たとえば、大きな町やたくさん公園やハイキングの道があります。県外に出たかったら、熊本駅からが行きやすいです。新幹線はちょっと高いですが、良い経験だったと思います。私はカナダ人だから夏は暑く感じました。でも、冬はとても過ごしやすかったです。一回だけ雪が降りました。

熊本学園大学は色々な授業がありますが、私は留学生向けの授業だけを受けました。先生は皆とてもやさしい人達です。赤木先生は話やすく、中村先生はとても面白くて、塩入先生はたくさん留学生生活を手伝っ

てくれます。もちろん、国際教育課のスタッフもやさしいです。何か困った事があった時は、皆さんがすぐ助けてくれました。

私は最近カナダに帰国しました。私はカナダに帰ることができて嬉しいですが、同時に新しいホームシックを感じます。この留学経験の後、熊本は私の二番目の故郷になりました。新しく熊本学園大学にきた留学生も、留学を終えて彼らが自分の故郷に帰った時に同じように感じてくれるといいです。



よくネコカフェに行きました

短い時間、長く残る思い出

キム ジ ミン
金 智 珉

【2018年4月～2018年8月
韓国・全南大学校からの交換留学生】

私は2018年4月～8月まで5か月間の留学をしました。留学を通じてたくさんの事を学び、たくさん自分の中の変化を感じました。

韓国では日本語の授業なのに韓国語を使い、日本人の先生とも韓国語で会話するほど日本語が下手でした。そんな私が日本への交換留学生になったと知った時、友達はあるか、一人ぼっちになったら大丈夫かと心配になりました。

しかし、熊本に来た時、それは杞憂だったと気づきました。先生方は助けが必要な時はいつでも連絡するように手を差し伸べてくださり、日本語に自信がなくて落ち込む時はねぎらいと激励で勇気を奮い立たせてくださいました。共に留学生活をする友達がいつもそばにいて、必要な事を教えてくれ、悩みを一緒に考え

てアドバイスをしてくれました。一緒に頑張りながら、毎日楽しく過ごしました。

短期間ですがアルバイトした所では外国人だといって背を向けるどころか、たくさん話しかけてくれ、仕事も手伝ってくれながら日本の職場文化や社会生活について教えてくれました。

このような生活のお陰で来る前のおどおどした私は姿を消し、友達と会話して遊べるように変化しました。5か月は短い時間でしたが、私の人生にとって長く残る思い出を作るには十分な時間でした。



帰国する当日見送りに来た友達と（筆者は前列右）

今までの留学生活

ヨ ダハム
余 ダハム

【2018年4月～2019年3月
韓国・大田大学校からの交換留学生】

私は高校生の時から、日本が好きで興味がありました。それで熊本に留学するのを楽しみにしていました。しかし期待が多かった分、心配も色々ありました。自然災害、言語の問題、物価など様々な心配を抱えて熊本に来ました。

でも、今考えてみたら余計な心配でした。最初は緊張していましたが、時間が経って留学生活も安定して、色々なものが見えるようになりました。ただ観光で日本に来た時には見えなかった、韓国とは違う小さな差がちょっとずつ見えるようになりました。学校のシステムやバスの乗客の行動、街の風景など似ていますが、何か違うところがたくさんありました。いつの間にか、こういう差を見つけるのが留学生活の楽しみの一つになりました。

また、熊本に来ていろんな経験をしました。初めて自転車に乗ったり、色々なお祭りを見て回ったり、好きな声優さんと直接会ったり、韓国ではしたことのない、できなかった楽しい経験をした留学生活でした。もちろん、夏の殺人的な暑さとか、体験した事のない地震等きつい経験もありましたが、こういう事も全部含めて、すごく楽しかった一年でした。

残り僅かな時間ですが、今まで以上に楽しんで一生記憶に残る留学生活になるよう頑張りたいと思っています。



寮の仲間と（筆者は二列目左）



留學生活について

リン トウ コウ
林 東 紅

【2018年4月～2019年3月
中国・深圳大学からの交換留学生】

日本に来てあっという間に7か月が経ち、もう帰国の時となりました。振り返ると数え切れない程、新鮮で楽しい思い出があります。

最初の頃はとても不安で、人と話す事を恐れていました。でも、先輩達は私達の不安を解消する為に、色々手助けをしてくれました。熊本城に連れて行って、夜は皆で集まってゲームをしました。先生方もとても優しく、色々助けてくださいました。そのうちに不安がだんだんなくなり、楽しくなりました。皆に、ありがとうございます。

また、日本の授業は中国と違いました。留学生の授業は少人数クラスで、先生と学生の距離が近く討論やプレゼン形式の授業がほとんどでした。各国の学生が活発に意見交換や発表をし、クラスはいつも活気に満ち

溢れています。異なる言語・文化背景や価値観を持つ学生との対話を通じて、視野を広げ思考を深め、多様な考え方を受け入れる事ができるようになりました。

色々な体験もしました。熊本ではお花見、おせち料理作り、着物体験をしました。沖縄では海水浴や水族館に行き、大阪ではお好み焼きを食べ、ショッピングもしました。充実した楽しい毎日を送る事が出来ました。

この留学を通じて、色々な面で勉強になり、自分が成長したと思います。熊本学園大学に来て本当に良かったと思います。



友達とカラオケ（筆者は左から2番目）

一生に一度のチャンス

ブイ トゥイ チー
Bui Thuy Chi

【2018年4月～2019年3月
ベトナム国家大学ハノイ校からの交換留学生】

熊本に来て丸7ヶ月が経ちました。

国際教育課のスタッフや先輩の留學生に優しく助けてもらい、自分の経験をシェアしたり、色々な所に連れて行ってもらったりして、良い思い出ができました。色々な国の友達ができ、それぞれの国の文化や料理を紹介してもらい、異文化理解が深まりました。言葉は違っても、一緒に寮で生活をし、学校に通い、遊びに行き皆仲良くなりました。

熊本学園大学では日本語、日本文化だけでなく、自分の興味がある授業も受けられます。熱心な先生方のお陰で将来役立つ経験をし、知識が身につく、とても勉強になりました。

この半年間に、夢だった翻訳・通訳の仕事やボランティア活動、日本文化、部活等様々な経験ができました。

た。時間管理能力もつき、日本語と英語が上達しました。また有益な経験により知識が身につく、自分の能力の限界を何度も超えてどんどん成長してきました。

勉強や三ヶ国語で仕事をした後は、頭痛で何も考えられない時もありました。ホームシックで泣くこともありましたが、そんな時はそばにいる仲間が慰めてくれました。皆にお世話になり本当に感動しました。

熊本への留学は青春の輝く、忘れられない1年間です。帰国までの残りの4ヶ月間に、やりたいことをやり、大切な仲間と自分の為に頑張り、後悔しないよう過ごしたいと思います。



日本文化演習の授業でサントリービール工場を見学しました（筆者は前列中央）

新鮮な概念と優しさの連鎖

外国語学部英米学科4年 ^{かねこ}金子 ^{さき}幸紀

【2017年8月～2018年4月
カナダ・セント・メアリーズ大学へ交換留学】

私はカナダのセント・メアリーズ大学に留学しました。語学学校の後大学に通いましたが、批判的に物事を考える授業が多かったのが印象的でした。受け身の授業に慣れていた私にとって、学ぶことが多く面白かったです。多民族国家であるカナダでは、誰がカナダ人か見た目で判断しません。日本では固定概念で“日本人”“外国人”を見た目で判断し、外国人に見える人にいきなり日本語で接することを躊躇する人も多はずです。カナダに着いた時、見知らぬ人にゆっくりではない英語で話しかけられて驚きました。しかし今では見た目で相手のバックグラウンドを決めつけないその概念の方が心地よいです。私が通った大学は多くの学生が、カナダ以外から来ています。大学で、次の人のためにドアを開けておく習慣がなかったアジアの学生がそれをしているのを見た時、私もこのような素

敵な習慣を身につけたいと思いました。留学先には優しい人が多く、数メートルもドアから離れているのに開けて待っていてくれたり、買ったものをレジに忘れていた時は店員さんが店の外まで走って持ってきてくれたり、本当に皆さん優しくかったです。英語はもちろん、ルームメイトとの生活でも苦労することがありましたが、たくさんの優しさのお陰で素敵な8か月を過ごすことが出来ました。



←アジア、ヨーロッパからの留学生とお別れ会（筆者は二列目左から2番目）



友人とハリファックスの美術館へ

自分だけの留学を実現

外国語学部英米学科4年 ^{おくむら}奥村 ^{あおい}葵

【2017年8月～2018年5月
アメリカ・モンタナ州立大学へ交換留学】

異国の地で、見知らぬ人たちとまったく新しい生活を始める。もし自分を変えたいという気持ちが少しでもあれば、留学はこのうえない貴重なチャンスです。自分の達成したい目的をなるべく早く見極め、明確にすることが成功の秘訣です。

“言語力を上達させること”は、ほとんどの人に当てはまるでしょう。だからこそ、その目標「+α」を探し出してください。これが、本当の自己成長につながる留学だと思います。目標の大小は問いません。“ギターを習得する”、“他国の料理を学ぶ”、“可能な限り旅行する”、“絵をたくさん描く”など、自分が心からやりたいと思うことでいいです。その目標達成を通して、学校の勉強では得られない人間関係や経験がきっと得られます。

私の目標は、大まかにいうと“知見を広げる”でした。

今までは関わらなかった人とあえて仲良くなり、勉強したことのない科目を受講し、新しい挑戦には迷わず飛び込み、また挫折も経験しました。その環境を作り出したことで、自分自身が揉まれ、磨かれたと思います。

留学生活はあっという間です。しかし「+α」の目標を持って行動するかしないかで、そのアウトプットを大きく変えることができます。自分だけの留学を実現することに、こだわりを持ってください。



←西海岸をイギリス人・トルコ人の4人で3週間ロードトリップ
グランドキャニオンにて

Thanksgivingのロードトリップ→
アンテロープキャニオンにて



←MSUでのInternational Art Concertにて



将来に繋がる力

外国語学部東アジア学科 5年 ^{たちかわ}立川 ^{さくら こ}桜子

[2017年3月～2018年2月
韓国・大田大学校へ交換留学]

大田大学校で過ごした1年という時間は、長いようであっという間に過ぎて行きました。私は韓国の音楽が好きという単純な理由で大学から韓国語の勉強を始めましたが、昔から留学したいという夢があったこともあり、それを目標に大学生活を送りました。

留学生活が始まってから最初は聞き取りに苦労をし、会話をするのもやっとでした。周囲に韓国語が上手な留学生が多く、それに圧倒され自信を失いかけた時期もありました。しかしこの1年は絶対無駄にできないと思い、イベントには必ず参加して韓国人学生との交流の時間を大事にし、「何事もあれこれ考えずにはまずは挑戦してみる」ということを心掛けるようにしていました。幸いにも周囲の友人に恵まれ、活動の範囲が広がることで日本では絶対にできないような様々

な経験をすることができました。

留学は、そこに行かないと感じ取れない空気をリアルに体感でき、また幅広い思考力や豊富な知識を得ることができます。無限に自分を成長させられる機会だと考えます。私にとって大田大学校での1年間の留学生活は、大切な人生の1ページとなりました。これから生きていく上で、自分の背中を押してくれる大きな力になったと強く思っています。



←修了式で国際交流チームの先生と日本人留学生と一緒に祝った時(筆者は左から5番目)



韓国人の友人の誕生日を一緒に祝った時(筆者は左から4番目)

積極性を高められた留学

外国語学部東アジア学科 5年 ^{せの}瀬野 ^{ともひろ}智博

[2017年3月～2018年2月
中国・北京第二外国語学院へ交換留学]

私は留学で一番重要なことは自分から積極的に行動してチャンスを掴み取るのだと思います。

私は語学が好きなので日本語を教える活動に毎週参加していました。週に3回は北京第二外国語学院の予科生に、週に1回は外部の語学スクールで社会人に日本語を教えていました。生徒さんは簡単な挨拶くらいしか日本語ができないので授業は7割程度を中国語で行います。生徒一人一人とも仲良くなり食事をしたり遊びに行ったりと交流をする中で中国で暮らす中国人のリアルな声を聞くこともできました。日本に対してどのような印象を持っているか、将来の夢、不安など本当に様々なことを語り合うことができたのでそれらの経験は私の留学の大きな収穫となりました。

このように自分から積極的にネイティブと話すチャ

ンスや自分を成長させられるチャンスを掴みに行くことが留学を充実させる上で最も重要だと思います。留学に行く前に現地で何をしたいかを具体的に決めてから出発すると現地に着いてから手持ち無沙汰になることもないかもしれません。

皆さんの留学が充実したものになりますように！



二外のモニュメントの前で留学生と中国人の友達と(筆者は中央)

サマープログラムに参加して

異文化生活

経済学部経済学科4年 なかむら しゅうと
中村 修斗

【2018年8月10日～2018年9月2日
 イギリス・セントラル・ランカシャー大学へサマープログラムとして参加】

私は常々、異文化での生活をしたいと思っていました。来年度より就職を控えている私としては今回のプログラムが大学生活でのラストチャンスということもあり、かねてからパプやビートルズが象徴しているようなライフスタイルや文化に憧れていたもので、イギリスへの短期留学を決心しました。

渡英前から他国籍の友人を作ると意気込んでいましたが、実際にイギリスに行ってみると、多種多様な人々との交流があり、英国文化だけでなく私と同じように留学に来ていた学生の国の文化を知ることができました。各々好きなワインやウイスキー談義から始まり、近年話題となっている Brexit や医療費についてなど政治色の強い話題について意見交換をする際には、拙い英語力しか持ち合わせていない私の意見も真剣に聞いてくれ、私が理解できるようにゆっくりと喋ってくれるなど、すんなりと私を受け入れてくれました。旅行ではなかなか知ることができない英国の生活文化など

貴重な体験ができ、私の人生の中で価値観が変わる程の経験をすることができました。英国の大学生の間ではシェアハウスがとても一般的であることに日本との違いを感じました。不動産業界に就職する私にとっては日本でのシェアハウス用物件の市場拡大について考察するいい機会となりました。

留学を通して語学はもちろんのこと、そのほかに何を得るかは各々違いがあると思いますが、とにかく飛び込んで何でも経験してみたいという欲求を大事にすることは間違いではありませんでした。



←ナイトクラブにて
 (筆者は中央)



←キャンパス近くのPUBでの
 交流会 (筆者は左から
 2番目)

短期認定留学に参加して

また会うために

外国語学部英米学科4年 たけもと みずき
嶽本 瑞希

【2018年2月10日～3月18日
 ニュージーランド・クライストチャーチ工科大学へ短期認定留学】

私は短期認定留学で5週間、ニュージーランドのクライストチャーチで過ごしました。初めての海外で、私にとっては国際線の飛行機に乗るというだけでビッグイベントでした。ニュージーランドの空港に到着したものの、乗り換えの場所が分からずグランドスタッフに尋ねました。初めて現地の人に英語で話しかけたのはこの時だったと思います。自分の英語が通じて、スタッフの人が何を言っているのかなんとなく理解でき「この留学、なんとかなるかもしれない！」と不安が吹っ飛びました。この事が、自信がなくて丸まっていた私の背中を押してくれたのだと思います。

こうして始まった私の留学では、たくさんの友達ことができました。何より嬉しかったのは異なる母国語を話す子と、唯一通じる英語を使ってコミュニケーションをとり、一緒に出掛けたことや帰国後にもまた会う約

束をしたことです。今まで学校の「教科」だった英語が、日常生活に不可欠なコミュニケーションツールになり、自分が英語を勉強する大切な理由が1つ増えました。

留学中に「ふん！」と勇気を出して英語で話して、通じた時の嬉しい気持ちとたっぷりついた自信を忘れずにこれからも楽しく英語を勉強していきたいと思えます。そして、ニュージーランドで出会ったたくさんの友達とまた会えますように！



←エイボン川の船頭さんと
 (筆者は右側)

天気に恵まれ、NZ最高峰のクック山を見ることが出来ました。絶景！↓



←友達のホストファミリーと。
 ピアノを弾いたら喜んでくれました！



海外協定校訪問（報告）

中国

日程：平成30年11月5日(月)～11月10日(土)

訪問校数：4校（深圳大学、広西民族大学相思湖学院、
広西大学行健文理学院、大連工業大学）

訪問を終えて：

今回の協定校訪問は、受入れのみの協定校からの留学生が年々減少傾向にあることから、各大学を訪問し本学の留学生受入れ状況やサポート体制について紹介することで、翌年以降の留学生受入れ増につなげることを目的に実現しました。

受入れのみの協定校3大学では、国際交流に関わる教職員の方々と相互に自大学の国際交流への取組みについて紹介し合い、さらに先方から出される今後の交流の可能性について話を伺いました。会談後は、現地の学生に対して熊本学園大学の紹介をさせてもらったのですが、本学で日本語や日本文化を学ぶ留学生の様子を伝える写真や動画には特に反応を示してくれました。学生たちとの交流を通じて、彼らの日本文化や日本留学への興味・関心の高さを肌で感じることができました。

また姉妹校である深圳大学では、広大なキャンパス全てを見て回ることはできませんでしたが、留学生の学習及び生活区域は一つひとつ見て回ることができ、今後の派遣業務に活かすことのできる視察の機会となりました。

今回の訪問では、各大学の現地担当者に直接会い、密な連絡体制を確認できたこと、また各大学からの貴重な意見や要望を持ち帰ることができ、今後の交流の発展につながる訪問ができたと思います。

(国際教育課 北原 かおり)



↑ 深圳大学の担当者と

↓ 大連工業大学の学生たちと



↑ 広西大学行健文理学院の学生たちと



広西民族大学相思湖学院にて→

アメリカ・カナダ

日程：平成30年11月10日(土)～11月22日(木)

訪問校数：4校（アメリカ・インカーネットワーク大学【UIW】、モンタナ州立大学【MSU】、キャロル大学【CC】、カナダ・セント・メアリーズ大学【SMU】）

訪問を終えて：

アメリカテキサス州サンアントニオ市にあるインカーネットワーク大学を皮切りに、4校の協定校を訪問してきました。国際教育課に所属してから正式に協定校を訪問するのは今回が初めてで、留学していたキャロル大学を除いては初めての訪問となりました。

インカーネットワーク大学では、開催されていた International Bazaar に留学ブースを設置し、本学の資料も並べさせて貰いました。また初級日本語の授業で本学をPRする時間も設けて頂き本学を紹介することが出来ました。キャロル大学では、相互の派遣が2012年度を最後に途絶えていることから、再度交流を活発にするための議論を中心に協議してきました。モンタナ州立大学、セント・メアリーズ大学との相互交流は順調にしていることもあり、今後は新たな取り組みとして、短期研修プログラムの実現も視野に入れてはどうかの打診を受けました。

各協定校においては、キャロル大学を除き本学から派遣している学生達にも会う事が出来、彼女らの生活環境や学習環境を直に見ることができ、また過去本学に留学していた学生達にも再会することが出来ました。全ての協定校において具体的な協議、また要望を聞くことができ充実した協定校訪問となりました。

(国際教育課 大澤 孝)



↑ 過去の交換留学生たちとインカーネットワーク大学にて

↓ 学生時代に留学でお世話になった当時の担当者とキャロル大学にて



↑ 過去の交換留学生と派遣中の本学学生とセント・メアリーズ大学にて

↓ UIW 留学フェア



平成 30(2018)年 海外往来

	派 遣	受 入
1月	■派遣交換留学生の帰国（アメリカ・ウィスコンシン大学オークレア校 [1名]、韓国・大田大学校 [3名]、中国・北京第二外国語学院 [1名]、深圳大学 [2名]、北京外国語大学 [1名]）	
2月	■派遣交換留学生の出発（NZ・ユニテック工科大学 [1名]、韓国・大田大学校 [3名]） ■短期認定留学生の出発（NZ・クライストチャーチ工科大学 [7名]）	■受入れ交換留学生の帰国（オーストラリア・ラトロープ大学 [1名]、韓国・大田大学校 [4名]、中国・深圳大学 [1名]、北京第二外国語学院 [1名]、広西大学行健文理学院 [1名]） ■受入れ交換教員の帰国（大田大学校・申宰秀先生（2/22）、深圳大学・邵铁锋先生（2/22））
3月	■派遣交換留学生の出発（韓国・全南大学校 [2名]、中国・深圳大学 [2名]） ■短期認定留学生の帰国（NZ・クライストチャーチ工科大学 [7名]）	■受入れ交換教員の来熊（大田大学校から李漢祥先生（3/12）） ■受入れ交換留学生の帰国（ベトナム・ベトナム国家大学ハノイ校 [1名]、中国・深圳大学 [1名]、広西大学行健文理学院 [1名]） ■受入れ交換留学生の来熊（アメリカ・インカーネットワード大学 [1名]、韓国・大田大学校 [7名]、全南大学校 [1名]、中国・深圳大学 [2名]、北京第二外国語学院 [1名]、ベトナム・ベトナム国家大学ハノイ校 [1名]）
4月	■外国語学部長期海外研修・海外インターンシップ出発（カナダ・ビクトリア大学 [学生 11名]）	
5月	■派遣交換留学生の帰国（米・モンタナ州立大学 [2名]、インカーネットワード大学 [1名]、カナダ・セント・メアリーズ大学 [1名]）	
6月		
7月	■日本語教員養成課程・日本語教育演習・海外実習（ニュージーランド・クライストチャーチ工科大学） [1名]（7/30～8/28）	■中国・上海市立文綺中学校中学生訪問団来学 ■台湾・崑山科技大學短期学生研修団来学 [12名]（7/10～7/24） ■台湾・崑山科技大學訪問団来学 [学生 3名、引率 1名]（7/12）
8月	■派遣交換留学生・短期交換留学生の出発（米・モンタナ州立大学 [1名]、インカーネットワード大学 [1名]、ウィスコンシン大学オークレア校 [1名]、カナダ・セント・メアリーズ大学 [2名]） ■外国語学部東アジア学科韓国海外研修（韓国・梨花女子大学校 [21名]）（8/1～8/21） ■外国語学部英米学科アメリカ海外研修（米・ベセル大学 [6名]）（8/1～8/23） ■外国語学部東アジア学科中国海外研修（台湾・国立台湾師範大學 [7名]）（8/5～8/25） ■外国語学部長期海外研修・海外インターンシップ帰国（8月～9月）（カナダ・ビクトリア大学 [11名]） ■学生自治会及び学翔学会（韓国・大田大学校 [学生 12名、教職員 3名]）（8/8～8/10） ■経済学部経済学科国際インターン実習（ミャンマー・カンボジア [学生 16名]）（8/8～8/22） ■サマープログラム イギリスコース出発 [16名]（8/10～9/2） ■海外就業体験プログラム（香港 [6名]）（8/14～8/21）	■受入れ交換留学生の帰国（米国・インカーネットワード大学 [1名]、カナダ・セント・メアリーズ大学 [1名]、英・セントラル・ランカシャー大学 [1名]、韓国・全南大学校 [1名]） 中国・大連工業大学 [3名] 台湾・崑山科技大學 [1名]）
9月	■外国語学部長期海外研修・海外インターンシップ出発（カナダ・ビクトリア大学 [6名]） ■経済学部経済学科国際研修（米・ニューヨーク [13名]）（9/1～9/13） ■日本語教員養成課程・日本語教育演習・海外実習（韓国・大田大学校 [4名]）（9/9～9/24） ■社会福祉学部海外フィールドワーク（韓国・順天郷大学校 [9名]）（9/17～9/20） ■社会福祉学部交換留学生の出発（ドイツ・ハインリッヒハイネ大学 [1名]）	■受入れ交換留学生の来熊（アメリカ・モンタナ州立大学 [1名]、インカーネットワード大学 [1名]、カナダ・セント・メアリーズ大学 [1名]、英・セントラル・ランカシャー大学 [2名]、オーストラリア・ラトロープ大学 [1名]、中国・広西民族大学相思湖学院 [5名]、台湾・崑山科技大學 [1名]）
10月	■日本語教員養成課程・日本語教育演習・海外実習（台湾・国立政治大學 [3名]）（10/15～10/27）	
11月		■中国・広西民族大学相思湖学院代表団来学（11/28～11/29）
12月	■派遣交換留学生の帰国（米・ウィスコンシン大学オークレア校 [1名]、NZ・ユニテック工科大学 [1名]）	■韓国・順天郷大学校学生研修団来学 [学生 20名、引率 2名、通訳 2名]（12/14～12/15）



平成 30(2018)年度 研修団往来

受入	研修団名	研修期間	期間	団員数
	崑山科技大学短期学生研修団	7月10日(火)~7月24日(火)	15日間	学生12名、引率1名
	順天郷大学校学生訪問団	12月14日(金)~12月15日(土)	2日間	学生20名、引率2名、通訳2名

	研修団名	研修期間	期間	研修・派遣先	団員数
派遣	日本語教育実習(NZコース)	7月30日(月)~8月28日(火)	30日間	NZ・クライストチャーチ工科大学	学生1名
	外国語学部東ア(韓国)海外研修	8月1日(水)~8月21日(火)	21日間	韓国・梨花女子大学校	学生21名
	外国語学部英米海外研修	8月1日(水)~8月23日(木)	23日間	米国・ベセル大学	学生6名
	外国語学部東ア(台湾)海外研修	8月5日(日)~8月25日(土)	21日間	台湾・国立台湾師範大學	学生7名
	学生自治会及び学翔学会	8月8日(水)~8月10日(金)	3日間	韓国・大田大学校	学生12名、教職員3名
	経済学部国際インターン実習	8月8日(水)~8月22日(水)	15日間	ミャンマー・ヤンゴン、カンボジア・シェムリアップ	学生16名、引率1名
	サマープログラム	8月10日(金)~9月2日(日)	24日間	英国・セントラルランカシャー大学	学生16名、引率1名
	海外就業体験プログラム	8月14日(火)~8月21日(火)	8日間	中国・香港	学生6名
	経済学部国際研修(アメリカコース)	9月1日(土)~9月13日(木)	13日間	米国・ニューヨーク、ロサンゼルス	学生13名、引率1名
	日本語教育実習(韓国コース)	9月9日(日)~9月24日(月)	16日間	韓国・大田大学校	学生4名
	社会福祉学部海外フィールドワーク	9月17日(月)~9月20日(木)	4日間	韓国・順天郷大学校	学生9名、引率4名
	日本語教育実習(台湾コース)	10月15日(月)~10月27日(土)	13日間	台湾・国立政治大學	学生3名

海外への派遣学生数

	派遣先大学名	平成 30 (2018) 年度				平成 29 (2017) 年度まで						
		交換	短期交換	短期認定 ³⁾	サマー ²⁾	交換	短期交換	短期認定 ³⁾	サマー ²⁾	HSP ¹⁾	短期派遣	
アメリカ	モンタナ州立大学	1				74						25
	モンタナ大学					21						
	キャロル大学					29						22
	ロッキーマウンテン大学											4
	インカーネットワード大学	1				34						
	アワーレディオブザレイク大学(熊本市交流事業)					7						
カナダ	ウィスコンシン大学オークレア校		1			10	8					
	セント・メアリーズ大学	2				31	2					
イギリス	カールトン大学					10						
	リバプールジョンモーズ大学					41	11					91
	アルスター大学					8						19
フランス	セントラル・ランカシャー大学				16	6			71			
	リヨン商科大学					2						
ドイツ	ボワチエ大学					1						
オーストラリア	ラインランド・プファルツ州立経済大学											16
ニュージーランド	ラトロープ大学					31	5				124	
	ユニテック工科大学	1				27	8		22	103	14	
韓国	クライストチャーチポリテクニク工科大学			5		1		8				
	大田大学校	3				88						
中国語圏	全南大学校	2				1						
	深川大学	2				57						
	中国人民大学					8						
	北京外国語大学					13						
	北京語言大学					11						
	北京第二外国語学院					12						
	広西師範大学(熊本市交流事業)					9						
崑山科技大学					3							
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ校					9						
タイ	チュラロンコーン大学					4						
	合計	12	1	5	16	548	34	8	93	227	191	

- ※ 網掛けは、現在交流を行っていない大学
- ※ 短期派遣留学(2ヶ月派遣)は、平成18年度をもって終了
- ※ 短期交換留学(1学期派遣)は、平成20年度開始
- ※ 短期語学ホームステイプログラムは、平成24年度の実施なし
- ※ サマープログラム(1ヶ月派遣)は、平成25年度開始
- ※ 短期認定留学は、平成28年度開始

- *1: 短期語学ホームステイプログラム
- *2: サマープログラム
- *3: 短期認定留学

平成 30(2018)年度 出身国・地域別外国人留学生数

春学期

(5月1日現在)

国籍 (国・地域名)	学部学生					研究生			大学院生					交換留学生	合計	
	1	2	3	4以上	計	学部	院	計	修1	修2以上	博1	博2	博3以上			計
中国	2	2	2	3	9	2		2	1	1	1		1	4	6	21
韓国	1		1		2										8	10
台湾										1				1	1	2
ベトナム															1	1
カナダ															1	1
アメリカ															1	1
イギリス															1	1
オランダ	1				1											1
合計	4	2	3	3	12	2	0	2	1	2	1	0	1	5	19	38

【8カ国・地域 38名】

秋学期

(10月1日現在)

国籍 (国・地域名)	学部学生					研究生			大学院生					交換留学生	合計	
	1	2	3	4以上	計	学部	院	計	修1	修2以上	博1	博2	博3以上			計
中国	2	2	2	3	9	5		5	1	1	1		1	4	8	26
韓国	1		1		2										7	9
台湾										1				1	1	2
ベトナム															1	1
カナダ															1	1
アメリカ															2	2
イギリス															2	2
オーストラリア															1	1
オランダ	1				1											1
合計	4	2	3	3	12	5	0	5	1	2	1	0	1	5	23	45

【9カ国・地域 45名】



平成30(2018)年度 留学生の主な参加行事

名 称	主 催	内 容	期 日
留学生ピクニック	熊本学園大学国際教育課	水前寺成趣園散策と熊本市動植物園散策	4月21日(土)
留学生歓迎会	熊本学園大学国際教育課	新入留学生の歓迎会	4月25日(水)
第31回熊本グループ留学生交流会	国際ロータリー第 2720 地区 ローターアクト	スポーツを通しての交流会	5月19日(土)
ウェルカムパーティー	熊本留学生交流推進会議	新入留学生との交流会	5月27日(日)
第28回外国人留学生弁論大会	熊本学園大学国際交流委員会	本学留学生の日本語による弁論大会	6月 9日(土)
山江村交流会	山江村教育委員会	山江村の小中3校との交流会	6月13日(水)
留学生送別会	熊本学園大学国際教育課	帰国する留学生の送別会	8月 1日(水)
第41回火の国祭りおもてやん総おどり	大学コンソーシアム熊本	コンソ熊本・留学生チームとして参加	8月 4日(土)
くまもと国際マンガCAMP in 阿蘇高森	くまもと国際マンガ CAMP in 阿蘇高森事務局	通訳ボランティア	9月17日(月)～ 9月19日(水)
留学生歓迎会	熊本学園大学国際教育課	新入留学生の歓迎会	9月26日(水)
第69回建国記念のお祝い国慶節	熊本華僑華人総会	国慶節を祝う会	9月30日(日)
WAの心で～お・も・て・な・し～	大学コンソーシアム熊本	熊本の観光地見学やおせち料理の調理体験	10月13日(土) 12月 2日(日)
日本文化体験Day	熊本市国際交流振興事業団	着物の着付けや茶道体験	10月 7日(日)
ウェルカムパーティー	熊本留学生交流推進会議	新入留学生との交流会	10月20日(土)
留学生バス旅行	熊本学園大学国際教育課	大観峰と黒川温泉へバス旅行	11月 2日(金)
留学生と話そうサロン オランダ	熊本市国際交流振興事業団	オランダの文化や習慣の紹介	11月17日(土)
多文化共生留学生シンポジウム	熊本留学生交流推進会議	第一部：「留学生に聞いてみよう！ ～もし私が熊本の宣伝部長なら～」 をテーマに発表 第二部：餅つき	12月 8日(土)
山江村交流会	山江村教育委員会	山江村の小中3校との交流会	12月12日(水)
成人式	日本現代和装研究会	着物の着付けと式典出席	1月14日(月)
第37回熊本春節祝賀会	熊本県日中協会	中国人留学生と協会員の交流	2月13日(水)
留学生交流会&お花見会	大学コンソーシアム熊本	お花見を通しての留学生同士の交流	3月26日(火)



INTERNATIONAL EXCHANGE PROGRAMS COMMITTEE MEMBERS

国際交流委員会メンバー

(2018年4月～)

委員長	佐藤 勇治
商学部	松尾 健治
経済学部	エイ チャン プイン
外国語学部	柴 公也
社会福祉学部	向井 洋子
大学院	岡村 一
国際教育課	松隈 英明

OFFICE OF INTERNATIONAL EDUCATION STAFF

国際教育課スタッフ

(2018年4月～)

課長	松隈 英明
係長	大澤 孝
	北原 かおり
	高井 智代
	古家 由美子
国際交流会館	宗 恵一

熊本学園大学 国際交流レター 2018 vol.40
編集・発行 熊本学園大学国際教育課

平成 31 (2019) 年 3 月発行



熊本学園大学

KUMAMOTO GAKUEN UNIVERSITY

〒862-8680 熊本市中央区大江2丁目5番1号

TEL 096-364-5161(代)

FAX 096-372-4112

[ホームページ] <http://www.kumagaku.ac.jp/office/kokko>

[facebook] <https://www.facebook.com/kumagakukokko>